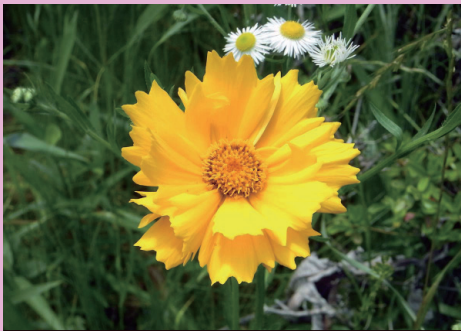


## 生命のにぎわい通信

第30号：発行 平成26年(2014年)5月

だんだんと暖かくなってきて、いろいろな生きものが活動しはじめると、特定外来生物も目立つようになります。特定外来生物として指定されている植物は、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ナルトサワギク、ミズヒマワリ、オオカワヂシャ、アレチウリ、オオフサモ、ボタンウキクサ、アメリカオオアカウキクサ、ナガエツルノゲイトウ、ブラジルチドメグサ、スパルティナ・アングリカの12種類で、ブラジルチドメグサとスパルティナ・アングリカはまだ千葉県内での報告はありません。栽培、保管及び運搬することは原則禁止です。輸入すること、野外に捨てたり植えたりすることも禁止です。千葉県内でもしこの12種類を見かけたら、ぜひ生物多様性センターにお知らせください。



オオキンケイギク

北アメリカ原産の多年草。明治時代以降に園芸植物として導入され、法面緑化などにもかつて使われた。さまざまな園芸品種があり、花の色がクリーム色、黄色、黄橙色のものや、舌状花の根元が褐色のものもある。開花期は初夏。



オオフサモ (a0544)

南アメリカ原産の抽水性で雌雄異株の多年草。湖沼、水路など浅い水に群生する。日本にあるのは雌株だけで種子繁殖はしていないという。1920年頃にドイツ人が持ちこみ、兵庫県で野生化したと言われる。現在は本州以南に広く分布。



ナルトサワギク (a0648)

マダガスカル原産の多年草。地際で倒れ、枝分かれして大きな株を作り、ほぼ一年中開花。1976年に徳島県で発見されて以来、兵庫県や大阪府で急速に広がり、本州中部から九州まで分布。アルカロイドの一種を含むため草食動物には有毒。



オオカワヂシャ (a0544)

ヨーロッパ～アジア北部原産の多年草。開花期は4～9月。1867年に神奈川県で採集された記録があるが、来た時期は不明。在来種のカワヂシャと交雑すると稔性のある雑種ホナガカワヂシャが生じ、遺伝的かく乱が心配される。



ミズヒマワリ (a0544)

中央・南アメリカ原産で抽水性の多年草。開花期は9～10月。ちぎれた茎の節から根を出し大きく生長する。戦後、熱帯魚の輸入とともに入ってきたと思われる、野生化が確認されたのは1995年愛知県が最初。関東・東海・近畿地方に分布。



ナガエツルノゲイトウ (a0329)

南アメリカ原産で、水辺の湿った環境を好む多年草。観賞用水草として輸入されたと思われ、ちぎれた茎などから旺盛に繁殖する。1989年に兵庫県尼崎市で採集されて以来、本州西部以西～沖縄に広がった。印旛沼、手賀沼等で報告あり。

## 平成25年度「生命のにぎわい調査フォーラム」を開催しました！

平成26年3月15日（土）に、千葉県立中央博物館講堂において、「生命のにぎわい調査フォーラム」を開催しました。参加者は、団員と事務局合わせて80名でした。

県民参加型の生物モニタリングを行う生命のにぎわい調査団は、設立から5年7ヵ月が経過しました。団員への生物多様性情報の提供並びに調査報告結果のとりまとめや団員相互の意見交換の場として、年1回調査フォーラムを開催しています。今回は、野生獣害の現状とその対策、調査団の活動と報告から見えることなどの説明に加え、団員3名から事例紹介発表がありました。

### (1) 講演「生物多様性を知る～イノシシの影響について」 浅田 正彦

千葉県のイノシシは一度絶滅しその後人為的に持ち込まれた国内移入種＝外来種である可能性が高い。

過去に県内で生息していた本種（博物館の標本）とは遺伝的に地域が異なることがわかっている。現在の農業者は過去に獣害に対応したことがない。イノシシは急激に繁殖し生息地を拡大している。しかし、捕獲従事者は高齢化等で減少しているため、獣害に負けない集落全体での対策が必須であり、農業者、地域住民だけではなく、新たに都市からの担い手の参画が必要となっている。

### (2) 報告「調査団の活動と報告から生物多様性の見える化へ」 柴田 るり子

団員数は895名を超えたが（平成26年3月末現在は901名）、団員住所地や報告地点の密度の少ない市町村があるため、さらに団員を募集することにより、報告の充実と報告地点の均一化を図ることが課題である。

報告結果の概要は、調査報告件数約30,000件（モズ、カワセミ等鳥類が多い）、種ごと発見報告マップから、発見報告は、県RDB（レッドデータブック）や外来生物の生息状況を記録するGIS（地理情報システム）のデータベースに活用されている。見える化・地図（生息・生育地図）にしていくことで、生きもののネットワークを考える＝生物多様性評価地図につながる。また、センター年報やハンドブックなどの各種刊行物で写真等が活用されていることなど、県民参加型モニタリングの役割とさまざまな県施策へ反映されていることを説明した。各地域で多様な主体が連携しながら、生物多様性の保全活動を行うことの必要性を解説した。

### (3) 団員からの情報提供「観察事例の紹介」

#### ①「現地研修会（夷隅川河口干潟、手賀沼）に参加して観察した生きもの」 本田 基令 さん

伝統文化や自然等の映像記録を趣味とする中で、被写体への知識を必要とし、調査団に参加して勉強している。

#### ②「調査団報告の地理情報システム（GIS）によるデータの活用」 佐藤 瑤子 さん

生物多様性センターと大学連携している東京情報大学で環境情報やGISを学び、今年度は研究連携の一環で、県内の希少生物の生息地図等を作成し、また、調査団の報告データを植生図等に重ね合わせして地図化した。報告情報の見える化や活用例を示した。

#### ③「楽しく感動のある自然観察会」 高見 等 さん

千葉市内の小中学校や公民館で自然観察活動を行っている。生きものを観察し、その生態に驚く子供たちの興味や関心を、未来につなげるための観察会を目指している。

### (4) その他、情報交換

- ・季節報告の年による違いをグラフ化して違いがよくわかったので、公表してほしい。
- ・希少生物の報告の活用を詳しく知りたい。
- ・希少種の生息・生育地を保護区としたい場合の手続きについて。
- ・調査対象種以外の希少種報告には写真は不可欠か。

## 「写真コンテスト」も同時開催しました！

当日参加された方の投票により優秀、最優秀賞が決定しました。

平成26年度 第1回 現地研修会は、いちほら市民の森で  
5月31日（土）に開催予定です。ふるってご参加ください！

平成25年度コンテスト最優秀賞  
「ド迫力!(コミズク)」

撮影 a0285



平成25年度コンテスト優秀賞  
「エナガ5兄弟」

撮影 a0284



## 〈これからの季節に観察できる生きもの〉

◎ (a0\*\*\*) は写真撮影者の調査団員番号

○調査対象種：カワセミ、ニホンアカガエル、サワガニ、キンラン、ヤマユリ、オオキンケイギク、オオフサモなど

○調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）

\* 渡りのヒタキ類、サンバなどの猛禽類 \* 各種昆虫、両生類、爬虫類など

\* 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や外来生物（**特定外来生物**・**要注意外来生物**）の報告も受けています。